



カジカの学君

Vol. 32

発行元 特定非営利活動法人 加治川ネット21
 〒957-0345 新潟県新発田市小戸886-1 TEL0254-31-4111 FAX31-4088
 ホームページ URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail kjn21@ml.shibata.ne.jp

会費振込先 郵便局振替口座 00500-5-35812 新潟県労働金庫 新発田支店 普通口座0499650

活動方針検討会のご案内

1996年11月に加治川ネット21が発足してから、まもなく10年が経過しようとしています。そこで、これまでの活動を振り返り、これからの活動をどう展開していけばいいのか、じっくりと考えてみたいと思います。開催は、10月9日(月・祝)午後1時30分からの開催を予定しています。



つきましては、会員の皆様にも普段感じていることや「こんなことをしてはどうか、してみたい」といった要望、「もっとこうした方がよい」という意見を出してもらいたいと思っています。

また、最近、ほ場整備事業等に伴い自然との共生を目指して生態系の保全に取り組もうという動きが広がってきています。当日はこれに関する新発田広域地域内の取り組み状況などの報告も行う予定です。

私たちの活動をもっと楽しくするために、皆様の参加をお願いします。

なお、詳細は追ってご案内いたします。

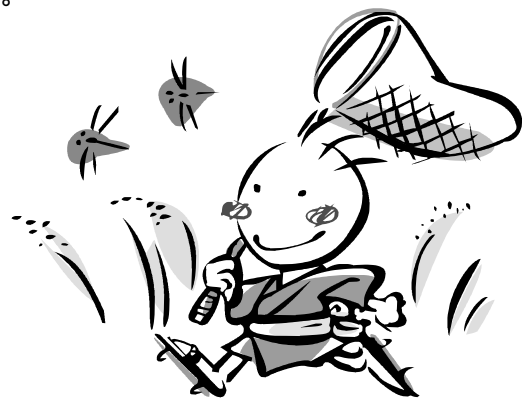
日時 10月9日(月・祝) 午後1時30分から

場所 新発田市ボランティアセンター(新発田市本町4丁目 0254-23-1000)

阿賀北池沼調査【紫雲寺地区編】

この事業では、中山間地の水辺を中心に活動を続けて来ましたが、今回は紫雲寺地区の池沼を調査します。さて、秋のイベントとして定着しつつあるこの事業も、今年は紫雲寺地区の丘陵地帯周辺の水路や瀧で生き物探索を実施します。どうぞ、お気軽にご参加ください。

日時 10月14日(土) 午前9時 受付開始
 場所 紫雲寺地区公民館(新発田市稲荷岡2371)
 参加 ひとり300円(2年生以下は保護者同伴)
 申込 加治川ネット21事務局(担当:江口)
 電話、FAX、Eメールで申し込んで下さい
 受付期間:10月6日(金)〆切



ふるさと生き物観察会

イバラトミヨの息する太齋地区のほ場整備にあわせて整備された灌漑用のため池で生き物調査を実施します。

日時 10月14日(土) 午前9時
 場所 太齋地区フォアン Pond

～ 15年後のサクラ堤を夢みて～ 加治川のサクラ堤 育樹勉強会

3月26日、新発田市加治川において、在りし日の加治川桜堤の復活を目指し15年後に立派なサクラに生育する姿を夢みて、適正管理する学習会が開催されました。

快晴で強風の中、学習会には加治川ネットや加治川を愛する会などのメンバー10名が集まり、当会田中理事を講師に、サクラの生育について概要説明を受けました。 当会では5年前から、サクラの満開のころに、花見がてらサクラの実態調査行っていました。今年から本腰をいれ、樹木の休眠状態にあるこの時期に剪定や治療を行い、出来るだけサクラの木に影響を与えない方法での作業を行い、旧新発田市側サクラの木を約50本、生育補助作業を行うことができました。

今回の作業では、加治川を愛する会、さくらの里づくりの会、県加治川の恵み協議会、新発田市の協力を得て協働作業を行うことができました。これからいろいろな方々の協力を得ながら、すばらしい加治川のサクラとなるよう活動していきたいですね。



ふるさと生き物観察会

4月23日(日)、太斎・久保地区の4か所と六日町で行われたふるさと生き物観察会には、スタッフ6人、イラストレーターの木村さん、農業新聞記者さん、その他一般参加の5家族、合わせて30人余りが参加しました。藤田講師のあいさつの後、久保地区から調査に入りましたが、ほ場整備事業が進行中で、用水を汲み上げているせいか、湧水が干上がって流れていない状態でした。イバラトミヨの棲む用水の水量も不足していて、全滅したのではないかと心配しながら網を入れましたが、ドジョウをはじめ数種類の魚を捕まえました。

捕まえた生き物については、藤田講師からそれぞれの生き物について一つひとつ説明があり、イバラトミヨは全部体長を測定してから川に戻しました。お腹の大きいメスが数匹いましたが、たくさん卵を産んでくれることを祈っています。

太斎・久保、六日町の住民の方々も加治川ネットの活動を理解され、大変ありがたいことと感謝いたします。余談ですが、三扶君のお父さんが作った分類別魚ケースはすばらしい作品で、魚に対する強い情熱を感じました。このような人が、一人でも多く参加してもらえるように頑張らねば、と思いました。



【イバラトミヨ関連報告】

湧水の枯渇も一時的なもので、現在は湧水も無事復活しています。また、ほ場整備事業にあたり、地域の方々のご理解もあって、一部イバラトミヨの保全のため土水路が残されることとなりました。

イバラトミヨの自然画葉書 販売中

絵ハガキの売上の一部は、イバラトミヨの保全活動にあてられています。

【価格】 150円 / 1枚 (店頭販売価格)

【取り扱い店】 萬盛社、ビュー福島潟、加治川ネット21事務局



五泉トゲソを守る会「トゲソ観察会」 地域交流と視察研修会

晴天に恵まれた4月29日、五泉市でトゲソ観察会が開催され、ネットの会員及びその家族10名が参加しました。

午前9時にカルチャーセンターを出発し、9時40分頃五泉に到着。会場では既に観察会が始まっており、約100人の参加者が思い思いのところで、トゲソを守る会会員より説明を受けていました。

水路は以前より管理が良くなされているという印象で、湧水箇所も増えたようでした。水路にはミクリ、コカナダモ、清流にしか生えないという水モズクが生え、営巣も1箇所確認されました。

午前11時からトゲウオネットからの報告会（発表団体：イバラトミヨ水芭蕉の会、阿賀川達人の会、加治川ネット21）が九区公民館で行われました。

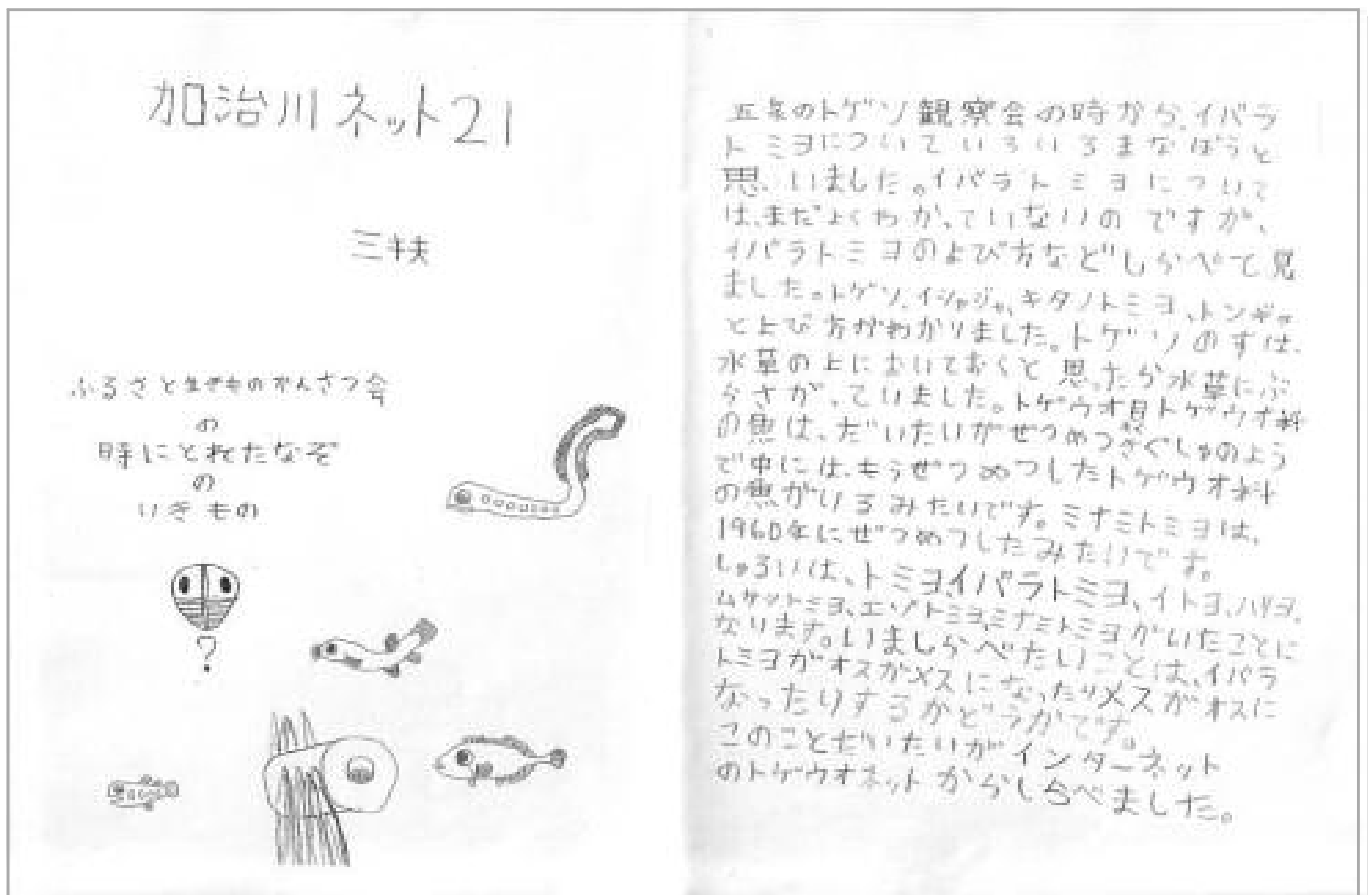
報告会の後は、楽しい葉わさび定食を堪能。地域のお母さん達の手作りの弁当は愛情たっぷりて大人は満足の一品でしたが、当会最年少会員の三扶君にはちょっと辛すぎたかもしれませんね。

この研修会を通じて感じたのは、地域の保全活動は地域の人と共に進めて価値があるものであり、五泉トゲソの会のすばらしさは、10年かけてトゲソの保全活動を地域の活動にした点であると思います。

我々の活動も見習わなければならないなど改めて思った次第です。



三扶君の感想



里山の恵み『春の山菜』 二王子山麓の恵みに乾杯

5月3日、会員限定 里山の恵み「春の山菜」が開催されました。当日は、埼玉県や新潟市、旧巻町からの参加もあり、会員やその家族など12名が集まりました。



昨日までの雨も上がり、快晴に恵まれた当日、新発田市の二王子神社を出発点に旧参道を下りながら、お目当てのたくさんの山菜を夢みていざ出陣。旧参道の両側には、少なくとも400年は経つであろう杉の巨木が立ち並び歴史の深さを感じました。杉林の中にたくさんのシダ類があり、参加者は、食卓にのるコゴミ、ゼンマイ、ワラビなどに良く似た山菜もたくさんあり戸惑うばかりでした。宮野理事から「シダは、茎の部分がまん丸でコゴミは茎に凹みあるのが特徴」という説明があり、はじめて参加した会員の子どもの喜びも大喜び！早速「こっちに沢山あるよ」と大はしゃぎ、みんなでたくさんのコゴミを収穫することができました。また、旧参道を進むにつれ所々に歴史的な感じの石積みや太鼓橋があり、山菜を摘むばかりではなく、風光明媚な二王子周辺に感銘を受けました。

二王子でたくさんのコゴミを収穫した後、食卓の彩りをもう少し飾りたいと云う希望に応えるため、別の場所へ移動。二王子山麓では、コシアブラ、ワラビ、フキノトウ、タラノメ、ウルイなど神社付近では採ることの出来なかったたくさんの山菜を採ることが出来ました。

今回は二王子の春の風を感じながら歩き、ふだん見落としがちなすばらしい北蒲原平野の風景の広大さを感じ、オオルリの艶やかな姿や求愛ダンス、東北サンショウウオの求愛行動など、自然界の命の紡ぎなども見ることができました。



～釣りを通して学ぶいいかわの姿～ 全国水がき交流プログラム2006in加治川

5月13日土曜日の午後から、「全国水がき交流会 in 加治川2006」がスタートしました。

「水ガキ」とは、川や水辺でたくましく遊びながら、水辺の生き物や水の大切さ、自然の大切さを学ぶ子供たちのことで、全国水環境交流会の犬山さんが提言した言葉です。

会場が加治川ということで、加治川ネットもこの事業に協力することになりました。

「小学生が加治川本流で溪流釣り？大人でさえも難しいのに、「無理だろうなあ」ということで、イワナやヤマメは釣れず、最終的には岡田の淵あたりでウグイを釣って誤魔化すことになるのかなと思い、ウグイを釣る仕掛けをこっそり用意していました。しかし、釣れたんですこれが。参加した9人の子供のうち、なんと7人がイワナもしくはヤマメを釣りました。場所は姫田川の上流部。



およそ、川遊びをする男たちにとってマス族の魚は特別の存在です。子供たちにとっても、自分の力でマス族の魚を手にしたその日、世間で言う成人式よりも価値のある一日であり、生涯忘れない記念日となるはず。子供たちに一生忘れないプレゼントをしてくれた全国水環境交流会の犬山さん、仙台からわざわざ来てくれた水環ネット東北の菅原さん、溪流再生フォーラムの西方さん、渡辺さん、本当にありがとうございました。

大峰山植物観察会に参加して

5月14日(日)いじみの植物の会との共催で大峰山植物観察会が行われました。前日からの雨で遠方の参加予定者からは欠席の報告が相次いだものの、当日、雨上がりの駐車場には11名が集まりました。

また、急用のため、講師を予定していた植木さんも急遽欠席。代わりに、野鳥の会にも所属する寺田氏が講師を務めました。



ウワミスズクラ

GW中に暖かい日が多かったせいか、見慣れた姿のサクラは葉桜になっていましたが、小さな花を房状に付ける愛らしいウワミスズクラが見頃を迎えています。

足下にムラサキケマン(キケマンもありました)やオオバキスミレ、チゴユリなどが咲き、頂上付近ではイカリソウの花も見ることができました。かわいらしい花ばかりでなく、茎の縞模様がマムシによく似たマムシグサや釣り糸を垂らしたようなウラシマソウなど変わった植物もあります。

この時期小さな生き物たちにとっては恋の季節でもあり、散策中は水際からアカガエルの声が途切れることなく聞こえていましたし、お昼近くには青空も広がり、中腹の休憩所ではツツドリやアカショウビン、クロツグミなどのさえずりも聞くことができました。

今回の観察会では、植物の説明を受けながら、じっくりと観察することで、それぞれの特徴や見分け方、名前の由来など、植物について学ぶ楽しさを味わうことができました。見慣れた植物でも、意外とその名前や特徴は知らないものです。みなさんも図鑑片手に、身近な植物を観察してみたいはいかがでしょうか。

三悠乙見江いきもの調査

6月3日、新発田市池ノ端を流れる三悠乙見江地区の農業用水路の生き物調査が、快晴の中実施されました。この調査は、生き物に配慮した土地改良法の施行により、現状の水路の生き物の実態を把握することを目的としています。参加したのは地元ほ場整備協議会の方々と県地域振興局農村整備部、そして当会からは自然環境部(旧技術部)を中心とした会員5人です。

調査は、ほ場整備計画地の下流から行われ、下流80mくらいから集落排水合流地点までの区間、合流地点から水路改修起点までの150m区間の2ブロックに分けて実施しましたが、ブロックでは、カワニナやオニヤンマの幼虫も見つかりました。地域の方の話ではホタルもオニヤンマも多く見かけるそうです。ゆるやかな流れと、それを包み込む草や樹木。小さな生物にとっては、本当に楽園のようなところでした。



第3回「身近な水環境の全国一斉調査」



6月3日(土)第3回「身近な水環境の全国一斉調査」(全国水環境マップ実行委員会主催)に、昨年に引き続き今年も加治川ネットが参加しました。今年の調査場所は新発田市内の新発田川、久保(清水川)、六日町(天辻川)、加治川本川の4カ所です。

今回は、「新発田川を愛する会」の方々も参加し、新発田川の調査では、清水園・足軽長屋の観光で訪れた人から「川が綺麗みたいだけど」「何かいるの?」などの声が掛かりました。

新発田川探訪『まちうら散策』

6月10日、かつて軍隊で栄えた新発田市街の西ヶ輪地区を歩く『まちうら散策』には、市内外からの参加者26名が集まりました。講師をお願いした鈴木秋彦さん（市教育委員会勤務）は、昨年のまちうら散策でも講師をやっていたいただきました。また、今回の事業は、新発田地域振興局の新発田川再生物語、新発田市下水道課の「下水道促進事業」との目的として協力もいただきました。

まず最初に新発田川本流に設置された『庚申堰』を見学し、新発田川が支えた人の暮らし、農業用水や水運としての役割などを学びました。新発田川沿いには、川底の敷石（改修以前の新発田川の遺構）や川端にある階段など当時の風情もよく、風情ある町並みが続いています。

川沿いの風景を堪能したあとは、伝統的な新発田名物「から寿司」をつくり続けている『魚國』さん、染物の技術を今に伝える『泉屋染物店』さんでお話を伺い、西公園内にある『招魂社』、自衛隊駐屯地内にある『白壁兵舎』見学。ぜひ一度みなさんにも散策を楽しんで見てください。



イオン新発田店「いきもの水族館」出展

6月10日（土）～11日（日）、イオン新発田店において当会の活動パネルと「生き物水族館」の展示をしました。イオン新発田店では、地域のボランティア団体を支援する目的で、毎月11日に黄色いレシートを発行しています。（投函箱が設置され、投函された黄色いレシートの1%が支援団体に還元されます）

当日は、新発田青年会議所が主催する「天まで届け！みんなのまちづくりへの願い、短冊の天の川にのせて」牛乳パック短冊の活動を支援するために、併設ブースを提供しました。



今回は黄色いレシート獲得にはあまりつながってはいなかったようですが、地域の豊かさを実感していただくことはできたと思います。

今度は、水槽の中ではなく、地域の川や池にいる「生き物」たちに来てみて欲しいと思います。

加治川ネット21会員募集!!

加治川ネット21では、阿賀北地域をフィールドに、自然環境の保全活動やまちづくり活動などを積極的に取り組んでいます。みなさんのいろいろな想い、やってみたい事などを教えてください。あなたもNPO法人加治川ネット21に参加して、一緒に取り組んでみませんか？

活動内容

- (1) 環境の保全を図る活動
- (2) 文化の振興を図る活動
- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 社会教育の推進を図る活動

年会費

個人：2000円 企業・団体：5000円



親子で参加する環境講座などを行っています

毎月第1木曜日に新発田市ボランティアセンターで定例会を行っています。お気軽に、お出かけください。

米倉・そば打ち体験＆ほたる観察会

6月24日(土)午後4時から、米倉にある『有機の里交流センター』(都市と農村の交流促進するための施設として本年4月に開設)で蕎麦打ち体験会が開かれ、約10組、40余名が集まりました。

まずは、主催者の「有機の里交流施設運営協議会」副会長 渡辺芳輝さんから挨拶があり、続いて蕎麦打ちの指導や蕎麦ゆでなどに携わる皆さんが紹介されました。今回は参加者のほとんどが初心者。

組ごとに計量された材料を『こね鉢』に入れると、蕎麦の香りが広がり、参加者から歓声が上がリ、会場は一気に賑やかな雰囲気になりました。早い組は30分、遅い組でも約1時間で打ち終わり、試食タイムへ。地元で採れた新鮮な野菜などの天ぷらが添えられたゆでたての蕎麦を、刻みネギと辛み大根のおろしを薬味に入れた付け汁でおいしくいただきました。蕎麦打ちや試食が思いの外早く終了したため、次のメニューの「ホタル講座」までしばし休憩。大きな樹木や高低差のある広い庭園を元気に駆けまわっている子どもたちの姿も見られました。



6時から行われた『ホタル講座』には、米倉小学校の子どもたちも参加。この講座では、加治川ネット21の永野理事が講師となり、ゲンジボタルが好む環境やその生態などを説明しながら、人の暮らしやホタルなどの小さな生き物がすめる環境づくりについて、一人ひとり考えてみて欲しいと訴えました。7時半には夕日も落ちてホタル観察会へ出発。観察会場の川沿いには、手作りの竹灯籠が設置され、ろうそくの灯りがほのかに揺れる小道は幻想的な雰囲気に包まれていました。

天候の割に夜の気温が低く、数は少なめとのことでしたが、8時をまわる頃には山際で乱舞する姿も見ることができました。寄ってきたホタルを捕まえては、手元でくり返すその柔らかい点滅を覗き込む子どもたちの姿がとても印象的でした。来年は、ぜひ一度足を運んでみてください。

水辺の大楽校 『ぼくらは五十公野探検隊!!』

7月29日(土) 雨は止んだものの、連日の豪雨のため水かさが増した加治川は危険と判断し、やむを得ず五十公野公園に場所を移して探検隊を実施しました。当日の参加者は約50名。共催団体の新発田地域振興局からは4名がスタッフとして参加してくれました。

今回は、ペットボトルトラップの作成、五十公野山からの沢水が流れる小川での生き物調査、石の成りたちの学習、お昼を挟んで植物観察、押し花づくりが行われました。

自作のペットボトルトラップでは、1つのトラップに30尾以上の魚が入っているものもあり、タナゴやドジョウのほか、シマドジョウやトノサマガエル、コオイムシやマツモムシ、5cm位の大きなオタマジャクシ(ウシガエル)やハグロトンボなどをと捕獲することが出来ました。

加治川と五十公野公園、どちらも楽しい自然ではありますが、暑い夏のこの季節なら、やっぱり加治川で水遊びがしたくなりますね。

来年に期待しましょう!



“清流”あらかわ大発見

8月6日(日)国土交通省主催の“清流”あらかわ大発見」が行われ、荒川町、新発田市、村上市などからの親子連れ約50名が参加しました。

まずは子ども限定で、荒川に造った生け簀の中での魚のつかみ獲りニジマス・イワナ・ヤマメが必死に逃げる中、子ども達も必死に追いかけます。あえなくつかまった魚たちは熱い炭火で焼かれ昼食のおかず。

荒川の水質調査では、2年連続全国水質ランキング一級河川NO.1に輝いているだけに、水質は非常に良く、バックテストではCOD、硝酸、亜硝酸、燐酸とも検出できませんでした。

生物調査ではお父さんたちも童心に返り、子どもと一緒に魚を追いかけてきました。中には、魚獲りはお父さんに任せ、ちゃっかり水遊びを楽しむ子もいました。上手な子ども達は大人の手を借りたり、網を使ったりしながら、カジカやヨシノボリ、ヌマチチブ、ウグイ、モクズガニをたくさんバケツに入れていました。



こは河口に近い場所のため、海の生物も確認できました。

午後は川と親しむ工作を行い、竹の水鉄砲やストーンアート、笹舟競争などを行いました。荒川の清流を改めて実感し、そこに集う生物の多様さに驚き、大人も子どもも大いに楽しんだ一日でした。



加治川ネット21の活動

2006年3月1日～2006年8月31日

3月の事業

- 3月04日 てまゑ味噌の会、味噌づくり会開催
- 3月10日 新発田市まちづくり活動支援事業 公開審査会
- 3月11日 酒と食文化の集い「菊水酒造日本酒文化研究所」
- 3月16日 まちなか・みちなか・どこでもトイレフォーラム
- 3月24日 公共用水域浄化のための下水道加入促進事業検討会 2名
- 3月26日 加治川のサクラ堤育樹勉強会 開催

4月の事業

- 4月02日 いじみの植物の会 - 新潟県内の絶滅植物について - 講演会
- 4月06日 定例会開催
- 4月09日 新発田市大クリーン作戦、紫雲寺地区海岸清掃作業作戦
- 4月09日 「私の加治川写真コンテスト」実行委員会開催
- 4月12日 新発田市まちづくり活動支援事業意見交換会 出席
- 4月15日 加治川桜堤「クリーン&ウォーク」参加
- 4月18日 国際ソロプチミスト 新潟はまなす 講演会及び表彰式
- 4月23日 ふるさと生き物観察会開催 20名参加
- 4月26日 局農村整備部「生き物生息地の保全について」
- 4月27日 局企画振興部「まちうら散策について」の打ち合わせ
- 4月29日 地域交流と視察研修会 五泉のトゲソ観察会 10名参加

5月の事業

- 5月03日 里山の恵み「春の山菜」 12名参加
- 5月13日 全国水がき交流プログラム2006in 加治川
- 5月14日 大峰山植物観察会
- 5月18日 私の加治川実行委員会(作業)
- 5月25日 悠乙見江地区生き物調査・現場踏査
- 5月28日 荒川受託事業 現場踏査 KJNET 3
- 5月28日 イオン新発田店環境展 打合せ KJNET 3
- 5月30日 福島潟環境保全対策推進協議会評議員総会にて講演

6月の事業

- 6月01日 羽越河川国道事務所 理事長 事務局長
- 6月01日 定例会 12名参加
- 6月03日 三悠乙見江用水いきもの調査
- 6月03日 太斎地区フォアンポンド湿地創出打合せ
- 6月03日 身近な水環境の全国一斉調査
- 6月10日 まちうら散策 26名参加
- 6月10日 私の加治川実行委員会 写真展設置
- 6月10日 イオン新発田店「生き物水族館」&「活動報告」説明員4名
- 6月11日 イオンイエローシートキャンペーン(ブース設置)
- 6月11日 私の加治川写真コンテスト 授賞式
- 6月19日 水土里ネット川東「トウホクサシヨウウオ学習会」
- 6月21日 水土里ネット豊浦町打合せ(ほ場整備関連)
- 6月23日 古太田川親水事業推進協議会:事務局長
- 6月24日 米倉地区蕎麦打ちとホテル鑑賞会「講師:永野」参加60名
- 6月27日 市立川東小学校、生き物マップ配布 宮野理事
- 6月30日 市立米倉小学校、生き物マップ配布 理事長
- 6月30日 米倉小学校第4学年 総合的な学習ゲストティーチャー

7月の事業

- 7月08日 蔵光地区トリハツツヨウの学習会
- 7月11日 「幸せの黄色いシートキャンペーン」(村上市)
- 7月13日 新発田青年会議所主催ディスカッション
「10後の我が郷土の未来予想図」パネラー
- 7月29日 ぼくらは加治川探検隊開催

8月の事業

- 8月06日 「古太田川親水事業推進協議会」いきもの調査
- 8月06日 “清流”あらかわ大発見 開催
- 8月20日 首集落、八幡集落主催 イバラトミヨの里江浚い
- 8月20日 どんこ池いきもの調査(新発田市中央公園)

これから厳しい残暑が予想されます。体調管理に気をつけて元気にお過ごし下さい。 会報編集委員会